２０２６年帰国留学生懇談会
（２０２６年１１月１３日（金）　於：大使公邸）

１１月１３日、在マラウイ日本国大使館は、リロングウェの大使公邸にて帰国留学生懇談会を開催しました。



６２年間にわたるマラウイとの外交関係の中で、日本政府は文部科学省（MEXT）奨学金、および国際協力機構（JICA）の長期・短期研修を通じて、4,000 人以上のマラウイ人留学生・研修生に日本で学ぶ機会を提供してきました。在マラウイ日本国大使館は帰国後の経験について共有し、日本で得た知識や技術をどのように活かしているかを情報交換する場として、ネットワーキング・レセプションを毎年開催しています。
また、本懇談会は、同窓生が政府、民間セクター、その他の機関の代表者と交流するプラットフォームとしても機能し、専門的なつながりを育み、日本とマラウイとの絆を強化しています。

今回の帰国留学生懇談会には、主賓としてブライト・ムサカ教育・科学技術大臣（Hon. Bright Msaka, SC）が、また、JICA マラウイ事務所の田中幸成所長、政府高官、民間セクターの代表、同窓生、その他の招待客の約５０名が出席しました。

内藤大使は挨拶の中で、日本の様々な奨学金や研修プログラムの恩恵を受けた 4,000 人以上のマラウイ人のネットワークを活かしてさらなる協力の機会を創出する大きなチャンスがあると強調しました。また、人と人との絆は日本とマラウイとの間で最も重要な資産であり、これらの絆をさらに深め、広げていきたいと述べました。

ブライト・ムサカ大臣は、マラウイ人の教育や専門能力開発への投資を行っている日本政府に謝意を表し、留学生たちが様々な分野で前向きな貢献をしていることを評価しました。さらに、同窓生がマラウイと日本の架け橋となり、二国間関係の強化において重要な役割を果たしていることを強調しました。

また、同窓生は日本での勉強・生活、その経験をどう生かしているかについて発表しました。そのうちの一人で、チムトゥ小学校の教師であり、MEXT 教員研修留学生の受給者であるエタヤ・ジュマさんは、日本で学んだことを現在どのように実践しているかを共有しました。例えば、彼女は児童たちの間にゴミの分別を導入し、紙、ガラス、プラスチックの正しいゴミ箱にゴミを分別するよう教えています。ジュマさんはまた、奨学金への感謝の意を表し、大学内での経験にとどまらず、旅行などを通じて日本についてより深く知る機会も得られたとし、スキーを楽しむ写真と共に自身の経験を共有しました。

同窓生による発表の後、ゲストは日本食を楽しみながら歓談・ネットワーキングを行い、更なる友情を深めました。

大使スピーチ全文：https://www.mw.emb-japan.go.jp/files/101119254.pdf



内藤大使によるスピーチ



ムサカ大臣による主賓スピーチ



ウェンガウェンガ大統領補佐官による
日本経験談



マンダラ NICO Insurance Company
CEO による AOTS 研修体験談



カシヤ元 JICA 留学生による発表



ジュマ元国費留学生による発表



田中 JICA 所長による乾杯の挨拶



発表を聞く参加者たち